

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月15日現在

機関番号：23702

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21792297

研究課題名（和文） コミュニティエンパワメントを重視した生活習慣病予防活動の  
評価指標開発研究課題名（英文） A Study on Develop the Evaluation Indicators of the Lifestyle-related  
Disease Preventive Activity Based the Viewpoint of Community Empowerment

## 研究代表者

山田 洋子（YAMADA YOKO）

岐阜県立看護大学・看護学部・講師

研究者番号：50292686

研究成果の概要（和文）：本研究は、地域において行政保健師が行う生活習慣病予防活動の質的評価について、コミュニティエンパワメントの視点を用いた評価指標を開発することを目的とした。文献調査および看護職への面接調査により、生活習慣病予防活動の評価指標の開発を試みた。生活習慣病予防の評価の視点として、個人に対する成果と地域に対する成果の関連を分析することが重要であると考えられた。また、地域への影響をみる視点は、地域特性との関連を有することから、活動開始時に地域のアセスメントを実施しておく必要があると考えられた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop the evaluation indicators of the lifestyle-related disease preventive activity of public health nurses based on the viewpoint of community empowerment. The study consisted of analyzing case reports and semi-structured interviews about nursing practice of lifestyle-related disease prevention. It is important that public health nurses analyzed an association of outcome for the individual with outcome for the community as a viewpoint of the evaluations of the lifestyle-related disease prevention. In addition, it is necessary to conduct community assessment at the start of the preventive activity because the viewpoint to see influence to the community had the association with the local characteristic.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学 ・ 地域・老年看護学

キーワード：生活習慣病予防、評価、エンパワメント、コミュニティ、保健師、行政

## 1. 研究開始当初の背景

生活習慣病は、健康長寿の阻害要因となり、

また国民医療費にも大きな影響を与えていることから、わが国の重要な健康課題の一つ

となっている。研究代表者は平成 18 年度より若手研究(B)による補助金を受けて「地域住民との協働による生活習慣病予防プログラムの開発」に取り組み、保健師は地域の生活習慣病予防活動において、住民との協働という方法により活動の成果を産出していること、常に個人と地域の両者を捉えて援助を行っており活動成果も個人への波及と地域への波及が連動していることが明らかとなった。

近年、地域保健活動においてコミュニティエンパワメントという概念が用いられている。これは、住民が主体となり健康で暮らしやすい地域づくりをめざすうえで重要な概念である。生活習慣病予防活動においても、コミュニティエンパワメントを促進することにより、地域の課題解決につながると考えられる。

また、コミュニティエンパワメントはそのプロセスとアウトカムを含む概念であり、活動の展開に関連する要素と活動の成果に関連する要素が含まれていることから、評価の視点として活かすことができ、この視点を意識した活動を行うことでより高い成果の産出につながると考えた。

これまで生活習慣病予防に関しては、生活習慣病を発生しやすい高いリスクを有する個人を対象に、病態に着目して生活習慣改善に向けたセルフケアを促すといった個人への介入が中心であり、研究の動向もまた同様であった。地域保健活動としての生活習慣病予防に関する資料は数多く報告されているが、これらの多くは実践報告レベルにとどまり、活動方法やその評価に関する普遍性の高い知見は十分に得られていない。

また、地域保健活動の評価について、その重要性は言われているが、評価方法は確立されていない現状がある。生活習慣病予防の評価に関する先行研究は、実施した生活習慣病予防プログラムについて、検査値や医療費の面からの評価した結果やプロセス評価を実施した結果について述べているものであり、地域への波及やコミュニティエンパワメントに着目した評価に関する研究はみられない。

このような現状から、生活習慣病予防活動を効果的に推進し成果をあげるために、コミュニティエンパワメントに着目し、活動の評価方法を確立させる必要性が高いと考えた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、地域において行政保健師が行う生活習慣病予防活動の質的評価について、コミュニティエンパワメントの視点を用いた評価指標を開発することである。

## 3. 研究の方法

### 1) 文献調査

#### (1) 文献検索

文献検索は医学中央雑誌 Web 版 Ver. 4 を使用した。検索キーワードは、「生活習慣病」and「保健師」、並びに「生活習慣病」and「保健活動」とし、重複する文献は除外した。検索対象期間は、2002 年から 2011 年までの 10 年間とした。分類を看護に限定し、会議録は除いて検索した。

文献検索により抽出された文献について、題目や要旨を含む書誌事項を概観し、生活習慣病予防を目的とした地域における保健師の実践活動が具体的に記述されている文献を選定した。そのうち入手可能であった 42 文献を分析対象とした。

#### (2) 分析方法

分析対象とした各文献に記述されている内容から、保健師が生活習慣病予防において用いている評価の方法、項目・視点を取り出し整理した。

### 2) 行政以外の分野における生活習慣病予防活動の評価に関する情報収集

行政以外の分野における生活習慣病予防活動の評価に関して情報を得るために、医療機関における活動の評価について、面接による情報収集を実施した。調査対象は、生活習慣病予防活動の実践事例が記載されている文献から、生活習慣病予防としての成果があったと判断できる活動を実施した看護職の中から選定した。

### 3) 保健師への面接調査

#### (1) 調査対象

生活習慣病予防において成果を産出した活動に取り組んだ行政に所属する保健師を対象とした。活動の選定基準として、中長期間（3 年以上を目安とする）にわたる活動であること、ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチを組み合わせていること、その成果が個人のみならず地域への波及が確認できることとした。生活習慣病予防に関する保健師の実践活動事例が掲載されている文献、報告書等の資料から条件に当てはまる活動、保健師を選定した。

#### (2) 調査内容

- ①基本事項（保健師の活動体制、活動が行われている地域の特性）
- ②生活習慣病予防活動の内容（活動の概要、活動における保健師の役割、評価方法、課題）
- ③活動によりもたらされた成果

#### (3) 調査方法

関連資料の閲覧および活動に主に関わっている保健師への面接聴取を実施した。面接内容は、対象者の了解を得た上で IC レコーダーに録音した。

#### (4) 分析方法

許可を得て録音した内容から逐語録を作成した。逐語録を熟読し、保健師が生活習慣病予防において用いている評価の方法、項目・視点が語られている部分を取り出し整理した。

#### 4) 倫理的配慮

面接調査にあたっては、面接対象者およびその所属長に対して、研究の目的、個人情報保護、研究協力の任意性等、倫理的配慮について文書および口頭にて説明し、調査協力への承諾を得た。本研究は、研究代表者の所属機関の倫理審査部会の承認を受けて実施した。

#### 4. 研究成果

##### 1) 文献調査：文献から確認できた生活習慣病予防活動における評価の視点

生活習慣病予防活動における評価の視点として分析対象文献から確認された具体的内容は、以下のとおりであった。

- ・生活習慣病予防が必要な住民自身が自分の実態について評価できるようになる
- ・対象者の行動変容のプロセスを捉える
- ・住民の変化を肌身で感じる
- ・1つのデータの変化に伴う他のデータの変化や生活習慣の改善、対象者の気持ちの変化等を把握し改善を確認する
- ・生活習慣病予防が必要な住民が、事業を契機に生活習慣改善の実践を継続・習慣化につなげられるかどうかを捉える
- ・住民の潜在している力を捉える
- ・生活習慣病予防に必要な住民に対する家族や同僚等周囲の人々の意識や行動の変化を捉える
- ・生活習慣病予防が必要な住民自身が自分の実態を仲間と話し合う機会が存在する
- ・生活習慣病予防が必要な住民同士で組織された自主グループの活動の広がりを把握する
- ・生活習慣病予防が必要な住民相互の交流の変化やそれによる影響を把握する
- ・生活習慣病予防に対する取り組みが継続される状況および地域の組織づくりの進展を捉える
- ・保健師と地域内の他専門職との連携における変化・充実を捉える
- ・生活環境を含む地域全体を把握する
- ・医療費や疾病統計の変化を把握する
- ・地域の健康課題を明確にし、事業を展開する
- ・働きかけが必要であり予防可能なターゲットを明確にする
- ・生活習慣病予防だけにとどまらない地域住民の健康課題への影響を意識する

##### 2) 行政以外の分野における生活習慣病予防

#### 活動の評価に関する情報収集

行政以外の分野における生活習慣病予防活動の評価について情報を得、生活習慣病予防活動の評価指標開発への示唆を得るために、病院に勤務する看護職を対象に、面接による情報収集を実施した。対象は、3施設3名の看護職であった。

1名の看護職は、生活習慣病予防を目的とした集団対象の健康教育を企画・実施していた。2名の看護職は、主に個別援助でかかわっていた。

3名の看護職が、生活習慣病予防活動において、評価として重視していることは、以下の内容であった。

- ・予防が必要な疾患の病態・機序やリスクファクターについて理解できているかを把握する
- ・対象者の身体状況を医学的視点から客観的に評価するために、血液データ等の数値を判断材料とする
- ・対象者が持っている危機感や気になっていること、こうしたいと考えていることに対して対応できているかを捉える
- ・かかわりの初期の段階で看護職がアセスメントした身体状態が、その後どのように変化したり維持できたりしたかを捉える。
- ・看護職の指導に対する対象者の反応（特に拒否や不満などマイナス面について）を敏感に捉える。
- ・対象者本人だけでなく家族への影響、波及効果も捉え、次の活動展開に活かせるようにする
- ・長期にわたる継続した支援が困難である場合は、かかわりをもつことができる数少ない機会を最大限活用して評価する
- ・継続してかかわる機会がもてる時には、前回のかかわりについての対象者の理解状況や残っている不安を捉える
- ・現在の状況だけでなく、今後自分の身体がどうなっていくかについての対象者本人の理解状況を捉える
- ・個々の事例の評価を丁寧に行い、それを積み重ねる
- ・援助を提供するスタッフ側の意識や取り組み状況がどうであるか捉える

##### 3) 保健師への面接調査

###### (1) 調査事例の概要

###### ①対象保健師

A町の保健衛生部署に所属し、成人保健事業を主に担当している。

###### ②A町の概要

人口約12,000人、高齢人口割合約30%  
年間出生数約80人、年間死亡数約170人  
(平成23年)

町の施策の柱として「健康づくり」に取り組んでいる。

### ③生活習慣病予防活動の概要

特定保健指導の開始に先駆けてモデル事業として開始した運動教室が主な事業である。この事業を開始して6年が経過している。

週1回、筋力の維持向上による基礎代謝量の確保、有酸素運動による効率的な脂肪燃焼をめざし、ウォーキング、エアロバイクによる有酸素運動と筋力トレーニングとを組み合わせ合わせた内容で実施している。現在、約100名が参加している。

この事業開始にあたっては、町民の健康づくりへの意識を高めるために、講演会を開催するなどポピュレーションアプローチにも力を入れた取り組みが行われた。

### (2)この活動において保健師が用いている評価の視点

#### ①個人としての評価の視点

- ・教室参加者一人ひとりであった取り組み方法になっているかを確認する
- ・集団対象の教室であっても参加者一人ひとりの変化を確認する
- ・運動や栄養だけでなく総括的に個人にとっての教室の意味を検討する
- ・生活面での変化を捉える
- ・教室参加者の血液データ、体力テスト結果等を見るときには、各指標の急激な変化に着目する
- ・教室参加者本人の訴えを重視するが、データをみて気になったときには保健師側からの介入を検討する
- ・教室の参加継続が困難になりそうな状況をキャッチし介入するタイミングを検討する

#### ②集団としての評価の視点

- ・教室参加者の血液データ、体力テスト結果等の健康指標、医療費の変化を把握する
- ・教室参加者の血液データ、体力テスト結果の各項目間の関連をみる
- ・新規参加者と継続参加者それぞれにとっての効果を区別して明確にする
- ・集団としての意義（皆で集まって楽しく継続する等）を捉える
- ・参加者自身が効果を実感できる仕組みができてきているかを確認する

#### ③地域としての評価の視点

- ・40歳以上または65歳以上の人口に対してどのくらいの割合の住民が生活習慣病予防事業に参加した経験があるかを捉える
- ・生活習慣病予防の教室がどのように住民の中に広まっているかを捉える
- ・教室参加者と非参加者間の医療費等のデータを比較する
- ・生活習慣病予防だけにとどまらない地域の健康課題への影響を捉える
- ・行政でやらなければならないことかどうかを判断する

- ・事業に対する首長の理解・意識を捉える・高まりを確認する
- ・教室が持続できるか、地域の中で根付かせることが可能かを検討する

### (3)この活動の評価において保健師が意図していること

この活動の評価において保健師が意図していることは、教室参加者一人ひとりの変化を把握し教室の効果を確認すること、および教室開始時に保健師が描いていた成果に対して実際がどうであったのかを判断すること、であった。

これらの結果から、地域における生活習慣病予防活動を推進していくための質的評価に関して示唆を得ることができた。

生活習慣病予防活動の評価指標としては、個人に対する成果、地域全体に対する成果、個人と地域の両者への影響の関連の分析を組み込むことが必要であると考えられた。そして、生活習慣病予防が必要な個人の変化を、行動や意識の面から詳細に把握し評価する視点、並びに、個人が、共に生活習慣病予防に取り組む教室や職場の仲間にも及ぼす影響を把握し評価する視点が必要であると考えられた。また、生活習慣病予防活動の評価方法として、活動の企画・実施・評価といった活動の全プロセスにおいて常に地域に及ぼされる影響を保健師が意識する重要性が明らかになった。地域への影響をみる視点は、地域特性との関連を有することから、活動開始時に地域のアセスメントを実施しておく必要があると考えられた。

コミュニティへの波及効果を評価していくことの重要性は示されたが、その指標の具体化は今後の課題である。

### 5. 主な発表論文等

なし

### 6. 研究組織

#### (1)研究代表者

山田 洋子 (YAMADA YOKO)

岐阜県立看護大学・看護学部・講師

研究者番号：50292686